

# 近畿中国局フォレスターNEWS

## 林業専用道の路網検討会を開催



県有林（越前町茗荷）



班別に検討

福井森林管理署と福井県は、9月8日に林業専用道の路網検討会を越前町で開催しました。当日は、林業・木材製造業労働災害防止協会、福井市、大野市、勝山市、池田町、越前町、森林組合、建設業者等から計47名の参加がありました。

まず、織田コミュニティセンターで、福井森林管理署長の挨拶の後、福井県森づくり課から検討会の概要説明がありました。その後、福井署から林業専用道の作設指針、規格・構造の外、丈夫で壊れにくい路網整備を行っていくためには、地形・地質・地域特性等、森林が持つ多様な条件に応じた道づくりがポイントであることなどの説明をしました。また、施工管理上の留意点として、①起工測量結果を基にした設計変更の提案も可能なこと、②効率的な森林施業となるように森林作業道の取付部や土場施設等を確保すること、③波形勾配での施工や横断排水工を適切な箇所に設置すること等を説明しました。午後からは、県有林に移動して路網計画の検討を行いました。参加者は、現地検討の後にコミュニティセンターに戻り、班に分かれて現地検討の内容を整理して、効率的な森林施業の実施を考慮した路網計画案を発表し、福井県からの講評を受け、路網計画についての理解を深めました。

今後も福井県と連携して現地検討会を開催し、林業専用道に関する知識・技術を森林・林業関係者に普及していきます。

## 木質バイオマス発電所を見学

島根森林管理署（16名）と森林総合研究所松江水源林整備事務所（4名）は、9月17日に、今年6月から稼働している松江バイオマス発電株式会社の木質バイオマス発電所（松江市大井町）を合同で見学しました。

同発電所の市川所長と白須副所長から、未利用材等から生産される木質チップを発電に使用することで、地域林業・中山間地域の活性化並びに環境保全への寄与等を図れることから建設したとの説明がありました。また、発電の仕組み、流動層ボイラーにより高い燃焼効率でチップが燃焼していること及び原材料の流れ等について説明がありました。この発電所は、出力6,250kw、年間発電量4,950万kWhで、県産材を主体に生産される木質チップを年間約8万8千トン使用の見込みです。当日も、約30分毎にチップを満載したトレーラーが到着していました。

島根署は、木質バイオマス発電所への未利用材の供給体制について、県、各市町、林業関係団体と連携していくこととしています。

※流動層ボイラーは、熱せられた流動砂が循環しながら燃料を燃焼させるため、炉内温度が均一で安定した燃焼が可能となります。



松江バイオマス発電(株)



同社トラックダンパースケール

※トラックごと持ち上げて荷のチップを下ろすことで、荷下ろしの時間短縮と横持ちコストを無くしています。

林野庁  
近畿中国森林管理局  
技術普及課



TEL: 06-6881-3524 FAX: 06-6881-2055  
URL: <http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>  
〒530-0042 大阪市北区天満橋1丁目8-75

## 編集後記

10月下旬に入って、めっきり涼しく（寒く）なりました。木枯らし何号かが吹いたとのニュースもありました。気温の変化によって、体調を崩して、風邪を引いた人も増えてきているようです。

風邪予防に手洗い・うがいの励行を、また、引いてしまった人は、こじらせないように栄養・休養を取ってもらえればと思います。健康第一です。